

(2016高齢者集会)

阿部保吉会長あいさつ

2016全国高齢者集会に結集された仲間の皆さん大変ご苦労様です。皆さんの中央・地方におけるご活躍に心から敬意を表します。

ご多忙なか本集会にご出席賜りましたご来賓の皆様に、日頃のご指導・ご支援と併せ深く感謝を申し上げます。

本年4月、熊本県を中心とする強い地震が連続して発生し、各地に甚大な被害をもたらした。また、異常気象による大型の台風と集中豪雨被害が全国的に発生し大きな傷跡を残しています。被災された多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。同時に、熊本地震災害の救援カンパの取り組みに対し深く感謝を申し上げます。

東日本大震災から5年6ヵ月が経過しました。しかし、被災地の復興・再生は被災された皆様の願いに応えられず政府の責任が厳しく問われています。とりわけ福島原発事故は、未だに事故原因の究明がない上に、森林の土壌汚染を含む汚染水対策の見通しが立っていない状況にあります。このような中で、被災された皆様は現在もお帰りたくても帰れない、帰る見通しもない状態におかれています。このように今日も避難生活を余儀なくされている皆様に、私たちは何ができるのか。それは原発事故の過酷さと福島の苦しみを忘れないことであり、原発事故を風化させてはならないと言うことだと思います。

さて、昨年の高齢者集会は9月15日に開催しましたが、集会終了後は会期延長の国会に向けて安保法案の廃案を求め、労働法制の改悪に反対し、社会保障の充実を求める国会請願行動を実施しました。更に、国会請願に引き続き連合が主催しました「安保関連法案成立阻止9・15緊急国会前行動」に合流し共に闘いました。安保関連法案の廃案と労働法制改悪撤回の取り組みについては、連合とともに院内外の行動を展開しましたが、延長国会の最終局面で政府・与党の強行採決により成立しました。

去る7月の参議院選挙は、こうした安倍政権の暴走に歯止めをかけ、連合とともに政治の流れを変える極めて重要な闘いでありました。そのために私たちは、連合推薦の全の候補者を退職者連合としても推薦決定し、連合と一体となった選挙闘争を展開しました。しかし、選挙の結果は選挙区においては一定の成果を見ることができたものの、全体としては期待した議席数には遠く及ばず、自公連立政権とこれを補完する改憲政党に3分の2の議席を許すこととなりました。衆参ともに3分の2の議席を制した安倍政権は、自衛隊の海外派兵や沖縄の新基地建設などの攻勢を一段と強めながら、憲法改正に着手するものと思われます。

一方、政府は、参議院選挙終了とほぼ同時に、医療保険部会や介護保険部会を開催し医療・介護等の国民負担を拡大する一方で、給付の削減を行うための制度改革の検討を進めています。

まず、医療制度については、75歳以上後期高齢者医療の患者1割負担を2割に引き上るとしています。しかし後期高齢者医療制度は、75歳以上高齢者に高い保険料の負担を求めています。その上で更なる患者負担の引き上げ求めることは絶対許すことはできません。保険料負担の差別を受けている後期高齢者医療制度は早期に廃止し、元の制度に戻すべきです。

また、介護保険制度においては、要支援の打ち切りに加え要介護1及び2の生活援助さえも打ち切り全額自己負にしようとしています。また、利用者負担1割を2割に引き上げることも検討していますが、このように制度改革が相次ぐようでは正に「保険あって介護なし」と言わざるを得ません。

年金については、政府が莫大な運用赤字を計上している株式投資は直ちに中止すべきです。そのうえで政府は、雇用制度を抜本的に改善し、正規雇用労働者を拡大することにより年金財政の安定を図るべきです。

最後に、年金・医療・介護等の社会保障制度は、政府の審議会等を経て国会で審議決定されます。退職者連合は、高齢者が心豊かに暮らすことのできる社会を目指し、連合との政策調整と連携を強めながら、各級選挙では退職者連合の総力を結集して闘います。以上、主催者を代表しての挨拶とします。ありがとうございました。